

令和6年度に実施した主な事業

乳幼児口腔衛生管理事業
156万円

対象を要フォロー児のみから、1歳6か月児・2歳6か月児・3歳6か月児健診受診のすべての児とし、フッ素塗布と保健指導への助成を行い、幼児期からかかりつけ歯科医をもつことを促しました。

民間保育施設公募事業
24万円

待機児童の解消を図るため、民間保育施設の公募を実施しました。



学校給食費助成事業

1,934万円

原材料費などの高騰による学校給食費の値上げ分への助成を行うことで、実質的に学校給食費を据え置き、子育て世帯の負担の軽減を図りました。

公園遊具リニューアル事業

977万円

市民や子どもたちが集い、楽しめる場を作るため、丹北小山下大船児童公園の大型遊具をリニューアルしました。

市立図書館耐震補強工事に伴う設計業務

642万円

安全確保に向けた耐震補強等工事に伴う設計業務を実施しました。

アイセルシュラホールリニューアル事業

1億7,059万円

これまでの生涯学習施設としての機能に加え、新たに観光機能を持たせると共に、世界遺産の価値や魅力を伝えていくためリニューアルを行いました。

まちなみ景観整備事業

7,282万円

道明寺駅周辺において、歴史性や地域性を活かしたまちの魅力アップを図るため、まちなみ景観整備を進めました。

市立市民総合体育館耐震補強工事に伴う設計業務

2,502万円

安全確保に向けた耐震補強等工事に伴う設計業務を実施しました。

ふるさとまちづくり 応援寄附金

藤井寺市へたくさんご寄附をいただきありがとうございました。

令和5年度に寄せられた寄附金のうち1億7,875万円(7,730件)は、令和6年度に以下のとおり使わせていただきました。

令和5年度 寄附された方が寄附金の使い道を8つの事業から選択			使い道の内訳(令和5年度)	
①子育て支援又は教育の推進に関する事業	2,932件	7,546万円	保育所・こども園・幼稚園・小学校・中学校の備品・図書購入	7,446万円
			母子保健推進事業	100万円
②福祉又は医療の充実に関する事業	628件	1,238万円	ふれあい支援事業	1,238万円
③観光又は産業の振興に関する事業	332件	676万円	シティプロモーション推進事業	676万円
④スポーツの振興又は青少年の健全育成に関する事業	175件	440万円	青少年育成推進事業	75万円
			市民総合体育館管理事業	365万円
⑤歴史的又は文化的な遺産の保全に関する事業	391件	843万円	文化財用地管理事業	843万円
⑥都市基盤の充実又は安全なまちづくりに関する事業	202件	461万円	道路環境整備	461万円
⑦まちの魅力をPRする事業	127件	201万円	ふるさとまちづくり応援寄附金事業	201万円
			市内水路修繕	1,216万円
			公園施設管理事業	158万円
			市営火葬場管理事業	444万円
			図書館資料充実事業	195万円
			道路環境整備推進事業	1,251万円
			文化財用地管理事業	6万円
⑧①から⑦のほか、市長が必要と認める事業	2,943件	6,470万円	アイセルシュラホールリニューアル事業	3,200万円

藤井寺市の財政のようす ~令和6年度決算の報告~

問合先 行財政管理課 財政担当(5階⑤番窓口) ☎939・1014

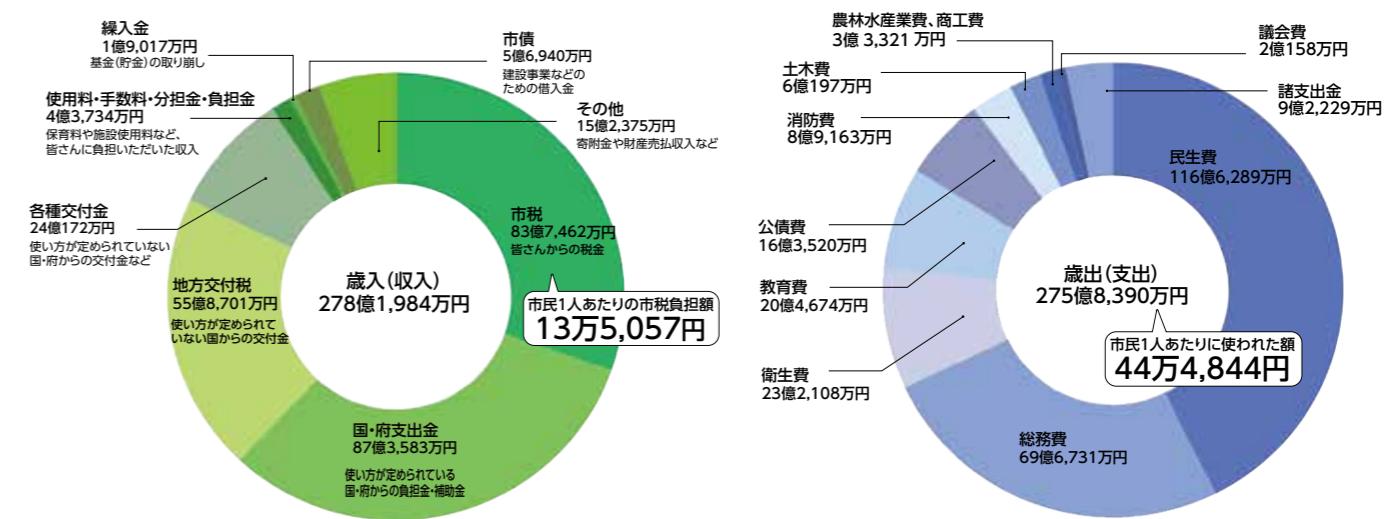


▲詳しくはこちら

決算報告(一般会計)

令和6年度一般会計決算は、財政調整基金(貯金)を取り崩すことなく、2億2,834万円の黒字となりました。

	令和6年度決算額	令和5年度決算額	対前年度増減額
歳 入	278億1,984万円	260億 978万円	18億1,006万円
歳 出	275億8,390万円	259億7,570万円	16億 820万円
形 式 収 支	2億3,594万円	3,408万円	2億 186万円
縦 越 財 源	760万円	1,889万円	-1,129万円
実 質 収 支	2億2,834万円	1,519万円	2億1,315万円



- 市税は定額減税による個人市民税の減少などにより、前年度と比べ約1億4千万円減少しました。
- 地方交付税は経済対策などの事業に必要な経費として追加交付があり、前年度と比べ約3億円増加しました。
- 寄附金はふるさと納税における返礼品の追加などにより、前年度と比べ約9千万円増加しました。
- 市債は退職手当債の発行や投資的経費が増加したことから、前年度と比べ約1億3千万円増加しました。
- 人件費は職員数や退職手当の増加、会計年度任用職員への勤勉手当の支給が開始されたことにより前年度と比べ約9億7千万円増加しました。
- 物件費は自治体情報システムの標準化移行業務の実施等により、前年度と比べ約1億5千万円増加しました。
- 扶助費は前年度から約6億2千万円増加しており、そのうち経常的な扶助費である障害福祉サービス費は前年度から約2億8千万円増加し、扶助費全体としては依然として増加傾向にあります。
- 投資的経費はアイセルシュラホールの改修や史跡買上げ事業を実施したことから、前年度と比べ約1億2千万円増加しました。

財政状況

市債残高(借金)

152億9,545万円

(前年度比 -8億8,357万円)



基金残高(貯金)

37億7,953万円

(前年度比 7億4,012万円)



財政健全化等の指標名	令和6年度
実質赤字比率	-
連結実質赤字比率	-
実質公債費比率	2.4%
将来負担比率	19.9%
資金不足比率	-
下水道事業	-

*表・グラフ内の数字はそれぞれの項目で四捨五入しているため、集計が合わないところがあります。

*市民1人あたりとは、令和7年3月31日現在の人口(62,008人)で割った金額です。

*この決算は12月議会で認定を受けようとするものです。

令和6年度 特別会計決算

会計名	歳入	歳出	歳入－歳出
国民健康保険	72億7,391万円	67億 99万円	5億7,292万円
後期高齢者医療	13億2,345万円	12億6,961万円	5,384万円
介護保険	69億 269万円	68億2,782万円	7,487万円

国民健康保険特別会計

国民健康保険料や大阪府からの交付金などを主な財源として、医療給付や保健事業などを行っています。

令和6年度末の被保険者数は11,136人で、前年度と比較して913人(7.6%)減少しました。保険給付費は44億4,758万円で、団塊の世代の後期高齢者医療制度への移行や社会保険の加入要件の拡大による加入者数の減少の影響により、前年度から8,292万円減少しています。

後期高齢者医療特別会計

後期高齢者医療制度は、運営主体である大阪府後期高齢者医療広域連合と市で事務分担をしています。

市では後期高齢者医療保険料や市の負担金を主な財源とし、各種申請や届出の受け付け、保険料の徴収などを行っています。

黒字収支となっていますが、これは令和7年度に広域連合に納付する保険料などです。

令和6年度末被保険者は10,483人で、前年度と比較すると2.3%増加しています。

介護保険特別会計

介護保険制度は、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるため、また介護を行う家族の負担を軽減するための制度です。市内の令和6年度末の後期高齢者は10,924人で、前年度と比較して257人増加しています。

市が支払った費用である保険給付費は、61億7,318万円となりました。前年度と比較すると、2億2,989万円(3.9%)増加しています。保険給付費の財源は、介護保険料が50%、公費(国・府・市)50%となっています。

令和6年度 企業会計決算

公共下水道事業

令和6年度は令和5年度と比較して、下水道普及率は1.0%増加の86.2%、年間有収水量は43,932m³減の4,735,005m³でした。

建設改良事業では、引き続き下水道整備を行い、下水道ストックマネジメント計画に基づく雨水ポンプ場の改築更新工事等に取り組みました。

収益的収支 ※1		資本的収支 ※2	
収入	支出	収入	支出
20億8,896万円	19億5,069万円	18億6,007万円	26億7,110万円

(※1) 収益的収支…通常の経営活動に伴う収支で、サービス提供に対する料金などの収入と、施設を維持管理する費用や人件費、借入金の支払利息などの支出

(※2) 資本的収支…施設や設備の整備などに伴う収支で、国からの借入金や負担金などの収入と、工事費や機器などの購入費、借入金の元金償還金などの支出

広告あり